

# かれんと

## 「男女平等のめざすもの」

人権の保障と平和の維持には密接な関係があるのをご存じですか？

国連は第二次世界大戦の惨禍を教訓に、世界の平和と人権を守るための任務のひとつとして、一九七五年を国際婦人年と定め、

一九七六から一九八五年を「国際婦人の十年」と決めて各国へ男女平等のために行動を起こすよう促しました。さらに、一九七

九年には「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）」が採択

されました。

つまり、どの国においても人権の保障なくして平和はあり得ないという認識にたち、差別問題の根底にある男女の性差別をなくしていこうというものです。

ことばを変えて言えば、「男女平等のめざすもの」は「世界の平和である」と言えます。

カレント  
Currentとは？  
時代の流れあるいは  
新しい潮流

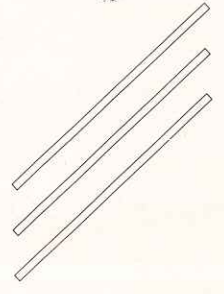
### 主な内容

- 男女平等のめざすもの
- どう思いますか？  
女の言い分・男の言い分
- 男女共生社会をめざす  
意見文・標語入選者
- 女性の海外研修報告
- すてきな女性
- トークの夕べ





# どいて思いまする？



私達の身の回りでの平等意識は、どうなっているでしょう。  
本当の男と女の平等とは、……を模索するために鹿沼市民の声を男女別に拾ってみました。

**就職の際の、条件制限付きは、差別ではないかな。**  
(公務員40代)

●年令・性別などにかかわる「条件」であれば、差別になりま  
すよね。

公務員だから、男女とも給料は同じなのに、女は、遅くなる仕事、難しい仕事は避けて通る。出張も奉仕作業も男まかせで、帰りは定時でサッサと帰るくせに、グチッてばかりで向上心がない。そんな女とは働きたくないよ。  
(公務員30代)

●女性自身の自覚も大切ですね。でも、サッサと帰らざるを得ない実情を、どう考えますか。

**男女平等と騒いでいるが、性差別の原因は、直接男性が関わっているものばかりではない。女性自身の社会生活のあり方にも問題があるんじゃないかな。実際に色々な差別に負けず、地位を確保している女性がたくさんいる。女性自身も、人間としてあり方を認識して、自ら勝ち取る姿勢があれば良いと思う。**

自分の都合だけで、男性に頼るのはやめて欲しいね。  
(会社員20代)

●社会的にも女性の自立、大切ですね。しかし、歴史的に男女の地位のスタートラインが違っていたことも認識してください。

**仕事で疲れて帰ってきた時など、妻がサークル活動などで長電話をしていて、食事の仕度が遅れるのは困るよ。昼の間、何の拘束もなく自由の時間があるのだから、その時にやって欲しいね。**  
(会社員40代)

●今でなければ間に合わない用件もあります。ときには自分で食事の用意も必要なのは。

女はさわられたとかで、すぐにセクハラだと騒ぐが、男に対して、ひげが濃いか、油ぎったのは気持悪いと言うのは、男に対する言葉のセクハラではないかな。  
(銀行員40代)

●ごもつともです。お互いに相手の立場に立って考えたいですね。

## 男の言い分



### 女兒を生んだ

時は「女の子ばかりじゃ、ひやあもしない。今度は男の子を生んでね」と言われ、めでたく男児を出産すると、「お手柄でした」と、姑に言われました。  
(長男の嫁30代)

●あらあら!!女の子も男の子も同じ人間なのにね。  
※価値がないという意味。

「嫁をとる」「嫁をもらう」という言い方は嫌いです。まるで、犬や猫みたい。  
(専業主婦30代)

●結婚が家と家との結びつきという考えは、過去の誤った考えです。

### 家族(夫・姑・舅・小舅)は、

「女は家にいろ」と言います。だから、ボランティア活動も、実家へ帰るのも、いちいち許可を得なければならぬのです。  
(農家の嫁20代)

●多いですね。このテの悩み。「自分がどう生きたいのか」を見据えて、自立する女性をめざしてください。

### 専業主婦ですが、私が社会参加(サークル活動や趣味の会)することには

協力的です。子供のことも気を配り、色々と手伝ってくれます。夫に頼っていれば安心です。  
(専業主婦30代)

●素晴らしい男性と結ばれて幸せですね。でも夫に何事かがあったとき、あなたは夫を支えられますか。

### 大工さん(男)の態度

で、女の私が「こうして欲しい」と言っても、やってくれないで、夫が言え、すぐにやってくれるんですよ。  
(専業主婦30代)

●依頼主は夫だけではありません。「私たちは夫婦です」と言ったら。

### 私の生きがい

は仕事です。経済的にも私の収入が必要なのに、夫は、私が働く事を喜びません。そのくせ、私の収入をあてにして、レジャーを楽しんだりするので、から腹が立ちます。  
(共働き夫婦40代)

●結構いるんですよ。こういう男性。お互いの幸せを願って結婚したはずですよ。

# 女の言い分

※いろいろな疑問ができましたね。

これからどうするか、一緒に考えてみませんか。

ハガキでご意見をお寄せください。



## 意見文・標語の入選者決まる!

◎意見の部 特選 該当なし  
 入選 「男女共生社会をめざして」  
 上日向833-3 板橋 和子さん

◎標語の部 特選 「両性の英知と参加で」  
 飛躍の21世紀」  
 見野1178-3 松永 勉さん  
 入選 「さわやかに共に高める心の絆」  
 西鹿沼町354 小太刀美恵子さん

市教育委員会では、「さわやかな男女共生社会をめざす内容」の意見文・標語を募集していましたが、上記の方々が受賞されました。



松永さん 小太刀さん 板橋さん

## 女性の海外研修報告

平成4年度栃木県女性の海外研修団々員30名は、女性の自立と男女平等社会及び21世紀の高齢化社会の到来に向け、豊かな福祉社会の実現をめざして9月26日から12日間、先進国カナダ・アメリカを訪問しました。本市からは、私達3名が参加しました。

両国では、女性団体、福祉、教育、消費者団体等の関係機関を訪れ、研修してきました。また、オクラハマシティではホームステイを体験し、生活の中から異文化を肌で感じとってきました。

アメリカでは国の始まりと同時に「ボランティア」と言われるほど、その活動は素晴らしいものです。そして、子供であっても人権は尊重されとても個性的です。

女性問題に関しては、両国とも抱える問題は日本と同じようです。国は違っても、女性として共に研修し、励まし合い、「お互いに女性の自立と男女平等社会の実現に向けて頑張りましょう!!」を合言葉に帰国しました。(参加者)石川光子、植野欣子、塩入佳子



▲歓迎レセプションにて(オクラハマ)

## と 女性 すてきな



「私、肩ひじ張って頑張るのは好きじゃないの。自然体が一番いいと思うわ。」泉町生まれで県内モダンジャズバレエの先駆者、福田真由美さんは、にこやかにそう語った。

今年40才。舞台上、スタジオで、華麗にダイナミックに踊る彼女は、とても若く見える。「毎日4時間以上踊っているもの。」エネルギーの源は?「何より踊るのが好きだから。」でも順調にここまで来たわけではない。結婚当初、婚家は踊りを続けることに大反対。悩みぬいた。でもあきらめなかった。新しい分野のモダンジャズバレエに飛びこんだのもそのころ。

「一生懸命やっている姿を見せることで理解してもらいしかなかったわ。少しずつ、少しずつね。初めての発表会が大成功だった時、やっと家族が認めてくれたの。今ではみんな応援してくれる。悩みも苦しみも踊ることで消化しちゃうの。

手足が動かなくなるまで踊り続けるつもり。」最後にニッコリ笑った笑顔がとてもさわやかで素敵だった。



## トークの夕べ 女と男の新しい生き方をともに語る!!

男性から見た性差別を考える＝“トークの夕べ”を去る11月21日(土)PM7:00から市役所を会場に開催しました。「ペアでの参加を」の呼びかけに9組のカップルを含む男性28名、女性35名が参加しました。講師は、埼玉県立志木高等学校教諭の熊田亘先生で、先生の著書「女と男」を引用しながらのお話しは、非常にわかりやすく示唆に富むものでした。また、男女平等社会の実現をめざすのは日本ばかりでなく、国際的な取り組みであり、世界の流れになっていることも学びました。フリートークでは、性差別はある、これからの男女の生き方は変わる、女と男の在り方を変える必要がある、男性の講師ということに意義がある、夫に聞かせたい、など活発な意見が出され、大変勉強になったと好評でした。

水ぬるむ季節になり  
 ふきのとうも色鮮やかに光っています。  
 今回の特集「男の言い分」「女の言い分」には、市民の皆様にご意見をいただきました。ありがとうございます。これからも、より良い情報紙になるよう頑張りますので、皆様のご協力、ご声援をお願いいたします。



編集後記